

小田原市文化振興審議会 第12回会議概要

- 1 日 時 令和7年10月24日（金）14時00分～
- 2 場 所 小田原市観光交流センター イベントスペース
- 3 出席者
 - (1) 委員
杉本委員長、萩原副委員長、大石委員、木村委員、上野委員、外郎委員、鈴木委員、池田委員
 - (2) 行政
大木文化部長、門松文化部副部長、早野文化政策課長
和田文化政策課副課長、渡邊文化政策係長、伊藤主任
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議の概要
 - (1) 小田原ならではの文化によるまちづくり基本計画の評価について
事務局より説明

A委員

観光事業において、市長はもとより職員も参加しているが、もう少し参加機会が増え、一緒に盛り上げていく必要があると感じている。運営についても、一緒になって現場に出て、市民や観光客の声を肌で感じていただくことが大事。

まち歩きについても、観光協会、市職員、ガイド協会、市民のみなさん、全てがガイドをできるような一体感が必要と感じる。

また、市民が手軽に参加できる企画があれば、費用がかからずに参加できて、ちょっとした文化に触れやすくなると思うので、そのような機会を提供するのはとても良いと思う。

評価の数値については、市民全体の数からいくと、1,000人位のアンケートで、何割まで達しましたという評価は難しいと感じる。

市民の中でも、文化活動をしている人、あまり関心の無い人がいて、私たちと市民との距離感がまだまだあると感じている。

B委員

小田原では観光ガイドで定番のコースを回るのが中心であるが、飲食などと結びついたガイドが観光客から好評である。ガイド料に割高感はあるものの、色々な選択肢があるのは良いと感じている。

地域の公民館などで活動している小さな団体がたくさんあり、より身近なところでどんな文化活動が行われているかを見ていくことは大切だと思う。

活動を行っているみなさんの高齢化が進み、5年、10年経った時に、次の世代が同じように活動し、続いていくのかという思いもあり、継続できる下地を作るためにも、

このような文化活動が活性化する環境を、市で整えてもらえるといいと思う。そうすれば「今度は三の丸ホールで発表しよう」となり、活性化していくのではないかと思う。

「小田原ならでは」という言葉にこだわって進めていくのであれば、まさに地域の公民館は「小田原ならでは」だと感じているので、お話ししたような団体の活動支援するのは良いことだと思う。

C委員

おだわらカルチャーアワードは、文化活動を行う団体や個人を掘り起こすだけでなく、関わりを通じて情報交換や共有など交流を持つことが、とても大切だと思う。このような交流が広がり、公民館などで地道な活動をしている個人や団体も含め、いつ、どこで、誰が、どんな文化活動をしていることが直ぐに分かるプラットフォームの必要性を改めて感じる。

事務局

今年度はアワードの参加者、受賞者へのアンケートを行い、どのような活動をし、横の繋がりがいいのか、どのような期待をしているかなどを把握していきたい。

C委員

中間評価は、最終的な達成度と比べると、まだまだという考えなので、ロードマップを書いたときに、1年目、2年目や中間的な目標に対して見ると混乱するので、「順調」という標記はすべて解決したと捉えられかねない。今回はあくまでも中間的な目標に対しての評価であるということが分かるように、表記したほうが良いと思う。

事務局

評価は、2030年度の目指す姿に対して、今、どれくらいかという評価をしているので、もう1回、その点を見直して、改める点などがあれば、修正をしたい。

来年度は、中間見直しとなるため、目標値も含め、見直し作業を行う。

D委員

子どもが小さいうちに、コンサートなどに連れて行きたいと思っているご家庭向けの企画を三の丸ホールで実現したい。どんなお子さんでも抽選で来ていただくことができれば、誰にでも優しい文化の街だということを皆さんに知ってもらえると思う。

E委員

経済的に困難でコンサート行けない人へ支援をするのは、継続的にしていくことが重要で、そうしないと効果が上がらない。あるところでは、小学3・4年生を招待し、文化事業を鑑賞してもらい、価値と効果を出しているところはあるので、そういったことは市もできることだと思う。

(2) 文化団体からの意見聴取について

事務局より説明

E委員

文化活動をしているみなさんが市に要望を出し、市がそれに応えるということではなく、活動している人同士が助け合う形をつくって活動を進めていかないと、みなさんが楽しく、そして豊かにはならないのではと思う。経済的なゆとりはそれぞれだが、いろいろな情報や思いを共有していくことが大切だと感じる。また、小田原の文化・観光と関わることは、参加者同士で分かち合うということになるし、観光ガイドの方たちだけでなく、市民同士の助け合いや分かち合いが醸成され、それが当たり前になっていくということが大切になってくると思う。

C委員

今回の目的は、皆さんの要望を聞いて市がなるべくそれに答えますというための機会ではなく、活動している皆さんのコミュニティをつくっていくための最初のステップだと思う。仲間同士で助け合うとか、連携をするチャンスをつくることを含め、その先にはコミュニティやプラットフォームをつくろうと考えている。ついては皆さんが、どのように捉え、どのようにそれを生かしていただけるのか、どのようなコミュニティにしていきたいかというテーマを持つことが必要だと思う。

F委員

担当職員が聞き取る形ではなく、ファシリテーターが居てワークショップのような形になると、お互いに支え合う新しい仕組みが出来ていくのではと思う。カルチャーアワードの受賞者に、意見を出してもらい、今後に繋げる方法が望ましいと感じる。

(3) 小田原市第7次総合計画第1期実施計画行政案について

事務局より説明

A委員

説明を聞き、この文化振興審議委員会が重要な役割を担っていると感じるとともに、やはり、観光と文化と歴史資産というのが一括りになっていかなければいけないと改めて思った。この審議会は、三の丸ホールを中心とした文化活動が範疇であるが、市民会館跡地の整備は、まさに小田原の文化の中心地の整備であるのに、市民に情報提供がない中で、すでに色々な話が進んでしまっている。これは、残念なことと思うので、情報公開や意見の聴取をしていただきたい。

事務局

市民会館の跡地活用については企画部で調整を進めているが、市議会9月定例会でも議会からいろいろな意見があり、精査し見直しをしていくと思う。

E委員

人口減少の時代、小田原市は関係交流人口の拡大という点で小田原城を中心とした歴史があり、そこに地勢や公共交通網の利点がある。更に食文化の高さがあると思う。

経済への貢献を考えると、この審議会や文化部の役割を単純に文化振興というところに収めるのは、ちょっと無理があるので、観光部があった方がいいという話に、私も賛同するところである。観光と文化だけでも同じチームで検討したほうが全体として、小田原のためになるのではないかと思う。

C委員

文化活動に関わる方々を核としたプラットフォームなり、コミュニティをつくっていきましようという議論がある中で、計画の中に、そういうことについて1つも入ってないことが残念に感じる。

また、三の丸ホールは核となる大切な施設であるが、三の丸ホールのことばかりが記載されているので、身近な施設や場所での開催も行っていくという議論もすべきではないかなと感じる。

国際交流では、海外に目を向けることは大切だが、小田原に住んでいる外国人と交流するのも大事だと感じ、3年ぐらい前から、市内在住の外国人に参加してもらおう企画を行っている。「文化交流の促進」というのがテーマであれば、小田原に住んでいる外国人との交流というのも、1つの項目としてあるべきだと思う。

F委員

やはり新しい未来に向かってもうちょっとこうアクションの内容を変えていかないと、これまで行ってきたことと変わらない。例えば、高齢化があり、世代を超えて文化をもっと伝えるような活動を活発にする、未来に向かって小田原がやらなくてはいけないことを入れていかないと、この協働プロジェクトのパワーにならないと思う。このことはすでに我々がずっと言ってきていることで、少しずつ始まっていると思うので、やはりもう少し、引っ張っていけるようなものが欲しいなと思う。

事務局

審議会として、オーソライズされて出ていくのではなく、個々の委員さんのご意見としてお受けして、それで、また今回の行政案の中で検討していくという形になる。